
言の葉紡ぐは君の為

治那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言の葉紡ぐは君の為

【Nコード】

N3551M

【作者名】

治那

【あらすじ】

世の中には様々な駆け引きがある。

今日もやりとりされる彼等の日常。

（前書き）

こつこつ手法の文章を練習中です。

世の中には様々な駆け引きが存在している。

国の政治の駆け引き。

軍の戦い中の駆け引き。

……そして、個人の恋の駆け引き。

今まさに俺の目の前で一組の男女が熱い火花を散らしている——筈だ。

たとえそうは見えなくても。

「毛皮とは実に素晴らしいよね。あの柔らかで繊細な触り心地はこの世の至福を約束してくれるもの。撫でてよし頬擦りしてよし包まれてよし！ あのもふもふこそ神の境地だよ！」

拳を握り阿呆なことを熱く語るのは小柄な少女。
腰まで伸ばした栗毛が三編みにされて、身振りに合わせて揺れている。

大きな瞳は新緑の色で、常よりも輝いて見えることからその真剣さが伝わるうというものだ。

……だが、実情を知っていても恋情に見えないのは何故なんだ。

「だけれどこのご時世、ペット飼育不可の物件やら飼ったとしても近所の苦情やらで世知辛いよね！ だからぬいぐるみが発明されたのよ。うるさくしないし臭いも出ない。ただひたすらに愛でること

ができるあの存在を考えた人は天才だよ！」

それまでやや引きつりながら話を聞いていた相手が口を挟む。

「……そのような話を獣人の私にする意図がわからないのですが」

嫌がらせなのかと黄昏れる相手を置き去りにして少女は続ける。

「そして獣人という存在は奇跡そのもの！ 会話ができるもふもふ！ そんな素敵過ぎる存在を友人に持つ私は恵まれているわ！ と、いうことで」

「……なんですか？」

渋々という表現がぴつたりだな。

「あたしもふもふに触りたいの。だからデルフィさんの毛皮に触らせて？ 大丈夫よ。綺麗に毛繕いしてあげるから」

「なっ、年頃の女性が何てことを言っんですか！？」

「あら、獣人は仲の良い人同士で毛繕いをし合う習慣があるかじゃないの」

「あれは夫婦や恋人が行う求愛行動です！ 友人がするものではないんですよ！」

そこは黙ってやってもらえ。

役得という言葉を知らんのか。

「そんなこと言っても、デルフィさん恋人いないじゃない。予行演習と思えば問題無いと思うの」

「そ、そんなことを演習するなんてっ……」

巷では『蒼の疾風』なんて呼ばれてる虎の獣人が尻尾をばしばしに

膨らませて恥じらう様は面白いな。
薄青い毛皮なのに桃色に染まりそうだ。

「とにかく、そんな危険なことを他の男に言っではいけませんよ！
獣人だけでなく人間にもです！」

「人間には毛皮が無いから最初から対象外よー。」

「毛皮があってもダメです。……いいですね？」

「はい」

それで二人のやり取りは終わり、それぞれの部屋へと戻っていった。
愉快的二人を見送り、傭兵団の食堂で酒を飲んでいると同僚が声を
掛けてきた。

「いやー、今日も楽しかったわねあの二人。あんなにわかりやすい
両想いなのに、どうしてお互い気付かないのかしら」「デルファイが
三編みが揺れるのが馬や鹿の尻尾を連想させて旨そうだと言ったか
ら三編みをするようになったり」

「カルリナちゃんががさつな男が嫌いだと言ったのを聞いて、これ
までの言動を180度変えて敬語にしてみたりとね。お互いの言葉
にすぐ反応してるのよね。自由時間はいつも一緒にいるし」

会話するでもなくまったり過ごすあの二人は『傭兵団の名物夫婦』
といわれている。

…… 本人達は知らないが。

「俺の部屋で飲むか？ 実は良い酒が手に入ってたんだ」

「ええ？ じゃあどうして食堂で安い酒を飲んでのよ」

「お前を待ってたんだよ」

そう答えると真っ赤になった。
可愛いやつだ。

「そうなの？　じゃあ……お邪魔するわね」

こうして先程見送った二人と違い、俺は惚れた女と連れだって自室へ戻った。

恋の駆け引きというのはどこにでもあるもんだ。
上手くやれたらいい人生だよな。

（後書き）

地の文に名前が出ないのはわざとです。

同僚視点のリアルさが感じられるかと思うのですが、そうでもない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3551m/>

言の葉紡ぐは君の為

2011年6月27日08時07分発行